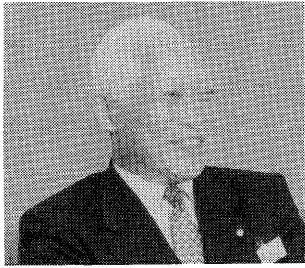


トップ インタビュー (株) オリエントコーポレーションの 情報システム戦略

本日は、今月号に「事例」を掲載して頂いた(株)オリエントコーポレーションの事務システム本部長に、情報システム戦略等についてお伺いした。



話し手 相良 和也氏
(株)オリエントコーポレーション
専務取締役 事務システム本部長

—始めに、事務システム本部の社内での位置づけについてお伺いしたいのですが。

営業と事務は企業にとっての両輪と思っています。すなわち、お客様に向けての側面と社内の効率化に向けての側面です。お客様サービスの向上、営業事務の効率化にとって今や情報システムは欠く事のできないものであり、当本部の任務もそこにあります。

—コンピュータ関係の技術は日々進歩していますが、今後どのような取組みをなされていくお考えでしょうか。

一番の課題は生産性をどう高めていくか、ということです。そのためには、世の中のツールから自分達に合ったものを見つけ積極的に試していくことが

大切と考えています。また、従来のウォーターフォール型の開発だけでなくEUC(エンドユーザ・コンピューティング)にも取り組んでいきます。

一方、システムの形態としてはホスト集中型からクライアント/サーバ型+オープン化指向に向けての取組みを行っていきたいと考えています。

もう1つはマルチメディアがあります。現在は、まだ部分的なマルチメディア・システムの実現の段階です。システム・トータルなマルチメディア化のためには、回線スピードのアップ等まだまだ解決しなければならない問題が沢山あると考えます。しかし、今後に向けて注視していくことが必要であると思います。

—御社における情報システム戦略をお聞かせ下さい。

大きく2つの柱を考えています。

1. 当社基幹システムであるオリオンシステムを抜本的に見直して営業強化をサポートしていくことが必要です。

お客様のニーズがどんどん変わってきたため、当初の設計思想とは一致しない面が見受けられるからです。また、技術的進歩性も薄れつつあります。

実は、先ほどお話した生産性向上もここに活かそうとして取組みを始めようとしているのです。

また、今回の阪神大震災の教訓をもとに災害や事故にも強い

システム作りを行っていく予定です。

2. もう1つの柱は事務の効率化と標準化です。全国に200以上ある営業現場の事務を徹底的に標準化するとともに、事務の生産性指標値のバラツキを抑えることを考えています。そのためには、新しい技術を導入していくことが必要だと考えてい



聞き手 大橋 康
情報処理学会誌編集委員

ます。これらは、今後のシステム拡充計画と表裏一体を成していく訳です。

—そのためには人材育成が大切だと思いますが、最後に、人材育成の考え方をお聞かせ下さい。

個人持ちになったノウハウをいかに組織的ノウハウとしていくかそして、この部門にいてよかつたと思ってもらえる技術者の人事制度の確立がキーポイントです。

本日はどうもありがとうございました。

(平成7年5月実施)